

海の森づくり

第10回

シンポジウム

昆布生産の聖地南茅部と

海の森づくり

－食材開発とコンブの多面的機能－

2013年6月2日(日)10:00-17:00
(~19:00懇親会)

会場：ホテル函館ひろめ荘

参加費：1,000円/人 (スピーカー・報道関係者
並びに学生証提示学生は無料)

資料代：500円/人/ (同上)

懇親会費：4,500円 (懇親会参加者のみ)

【ポスターセッション】

1) ポスター提供：

新日鐵住金株式会社 TBR株式会社
日本農産工業株式会社 門脇秀策 (鹿児島大学)
堀田健治 (日本大学) NPO法人海の森づくり推進協会

2) 試食品の提供：

株式会社昆布ロード研究所 日本農産工業株式会社

主催 特定非営利活動法人 海の森づくり推進協会 (<http://www.kaichurinn.com>)
共催 道南伝統食品協同組合、NPO法人川や海を守り伝統を伝える会、株式会社昆布ロード研究所
お問い合わせ先

◆函館市臼尻町：久二野村水産株式会社(野村 譲)
〒041-1613 北海道函館市臼尻町245番地； e-mail: amimoto@hamazukuri.com
Tel: 0138-25-3456; Fax: 0138-25-3457 または携帯電話：090-8427-6097

◆函館市大船町：成田省一
〒041-1622 北海道函館市大船町274番地； naritasyouiti@hotmail.co.jp
Tel & Fax: 0138-25-3159

◆秋田：海の森づくり推進協会事務局 (松田恵明)
〒010-0872 秋田市千秋北の丸5-72; matsuday2006@yahoo.co.jp
Tel & Fax: 018-833-7734 または携帯電話：090-3603-5415

はじめに

【趣旨】

「コンブを使った食材開発」は南茅部の昆布生産者の最大の関心事です。

基調講演では、南茅部町の昆布生産の現状と課題を学び、環境の保全に対する水産庁政策とヨーロッパの海藻事情を幅広くご紹介いただきます。

パネル討議では、6人のパネリストがそれぞれの専門と経験からコンブを中心とした南茅部の昆布生産者の関心事や将来にむけた前向きな討議を展開します。

パネル討議の最後には、聴衆との意見交換にも大きく時間を割き、南茅部町の昆布生産者の関心事に焦点をあて、幅広い討論の場としたい。

【目的】

食材開発とコンブの多面的機能を通して、昆布生産の聖地南茅部の昆布生産者と海の森づくりの接点を追求することです。

最後になりましたが、この海の森づくり第10回シンポジウムの実施に当たり、共催者やスピーカーの皆様の他多くの団体・個人の皆様のご協力を頂きました。ここにご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。さらに、当日ご参加の皆様には、本シンポジウムがみのり豊かなものになりますよう積極的なご参加を期待いたします。



大川 岩男氏



本城谷 多一郎氏



オオニシ恭子氏



松本 忍氏



亀岡 省一氏



野村 譲氏



村上 俊哉氏



門脇 秀策氏



渋谷 正信氏



藤野 修二郎氏

◆ これまでの「海の森づくり」シンポジウム

- 2012年 第9回シンポジウム「生物多様性と海の森づくりー海の森づくりの社会貢献ー」
2011年 第8回シンポジウム「東京湾の環境と魚たち、今・昔」
2010年 第7回シンポジウム「海と森の共生」
2009年 第6回シンポジウム「海洋施肥と海の森づくり」
2008年 第5回シンポジウム「バイオ燃料と海の森づくり」
2007年 第4回シンポジウム「海洋環境と沿岸漁業振興問題解決策としての海の森づくり」
2006年 第3回シンポジウム「食糧・環境問題解決策としての海の森づくり」
2005年 第2回シンポジウム「里山、里地、里海を考えよう」
2004年 第1回シンポジウム「いま、なぜ海の森づくりか?」
2003年 講演会 「21世紀の海づくり、魚づくり、人づくり」

◆ これまでの「海の森づくり」こんぶサミット

- 2009年第3回こんぶサミット in 壱岐・東京・重茂・青森・宇和島 豊な海との共生を目指して
2007年第2回こんぶサミット in 壱岐・東京～環境と食育～
2005年第1回こんぶサミット in おおむら



堀田 健治氏



松田 惠明氏

講演者プロフィール

総合司会 NPO法人海の森づくり推進協会幹事長兼事務局長 藤野 修二郎氏

基調講演者1 尾札部昆布生産加工企業組合代表理事 大川 岩男氏

「私は尾札部の昆布と共に生涯を過ごしてきた。しかし、今、若者は昆布生産者として残らない。南茅部町を後継者が残れるような昆布の里に復興したい。」

基調講演者2 水産庁漁港漁場部計画課企画班 本城谷 多一郎氏

水産業・漁村は、多面的な機能を有しているが、漁業者の高齢化、漁村人口の減少等によりその機能の発揮に支障を来たしている。その中の国の施策の紹介。

基調講演者3 薬膳料理研究やまと薬膳『いってん』主宰 オオニシ 恭子氏

欧州は今、海藻に未来を託しています。エネルギー源の開発に希望を託し、食卓への開発も急速に広がっています。その背景、経緯、未来の展望について、考えていきたい。

パネル討議司会 大学特任教授 堀田 健治氏

NPO法人海の森づくり推進協会代表理事 松田 恵明氏

話題提供者1 株式会社昆布ロード研究所代表取締役 松本 忍氏

私は大阪昆布業界の1員。昆布市場は昆布の生産から加工・流通・消費まで全てが密接に係る。昆布を食べずに昆布流通を語ることは出来ない。昆布は健康食品の王様である。

話題提供者2 南茅部町市民 成田 省一氏

私は昆布と共に生涯を送ってきた。函館・南茅部の昆布産業の将来は函館市のフード特区構想の実現にかかっている。今こそ函館市のフード特区構想に叡智を結集しよう!

話題提供者3 NPO法人川や海を守り伝統を伝える会理事長 野村 譲氏

私は久二野村水産株式会社代表取締役6代目。海洋自然環境と共生する伝統的な「待ちの漁法」大謀定置網漁法の次世代への伝承のために、出来ることを何でもしたい。

話題提供者4 北海道こんぶ研究会/エコニクス社 村上 俊哉氏

北海道こんぶ研究会の活動内容及び神恵内村において漁業者自らが実践している藻場LAND事業の紹介

話題提供者5 鹿児島大学教授 門脇 秀策氏

共生、再生、循環の未来社会を!協会幹旋コンブを餌としアワビ年間200万個生産を目指すに秋田県八峰町遊休施設を再生する産官学民による循環複合エコ養殖事業の紹介

話題提供者6 渋谷潜水工業株式会社代表取締役社長 渋谷 正信氏

日本で初めての本格的な「漁場藻場研究所」を設立、地域の活性化と海の中の森づくりをテーマに活動中。海洋再生可能エネルギーと漁場藻場づくりの紹介。

シンポジウム

会場：ホテル函館ひろめ荘多目的ホール 2013年6月2日（日）

海の森づくり第10回シンポジウム

昆布生産の聖地南茅部と海の森づくりー食材開発とコンブの多面的機能ー

総合司会：海の森づくり推進協会幹事長兼事務局長 藤野 修二郎

【プログラム】午前の部

- 10:00-10:05 開会宣言と趣旨説明 海の森づくり推進協会代表理事 松田 恵明氏
- 10:05-10:50 基調講演1 昆布生産の聖地南茅部について
講師：尾札部昆布生産加工企業組合代表理事 大川 岩男氏
- 10:50-11:00 休憩
- 11:00-11:45 基調講演2 水産多面的機能発揮について
講師：水産庁漁港漁場整備部計画課企画班 本城谷 多一郎氏
- 11:45-12:30 基調講演3 欧州海藻未来
講師：薬膳料理研究やまと薬膳『いってん』主宰 オオニシ 恭子氏
- 12:30-12:35 事務連絡
- 12:35-13:30 昼休み

【プログラム】午後の部

- 13:30-17:00 パネル討議：コンブを使った食材開発と海の森づくり
司会：日本大学特任教授 堀田 健治
鹿児島大学名誉教授 松田 恵明

【話題提供】

1. 松本 忍氏 昆布ロード研究所代表取締役 「昆布市場の変遷と課題」
2. 成田 省一氏 南茅部町市民 「昆布生産の聖地南茅部の将来」
3. 野村 讓氏 川や海を守り伝統を伝える会理事長「昆布増養殖と定置網漁業」
4. 村上 俊哉氏 北海道こんぶ研究会・エコニクス株式会社
「MoBAプロジェクトとエコニクス社の藻場LAND事業」
5. 門脇 秀策氏 鹿児島大学教授「海藻とアワビの陸上複合エコ養殖のすすめ」
6. 渋谷 正信氏 渋谷潜水工業株式会社代表取締役社長
「漁業と共生する海洋開発ー壱岐の事例ー」

- 15:00-15:10 休憩
- 15:10-16:55 パネル討議（含総合討論）会場の皆さんの御意見大歓迎
- 16:55-17:00 まとめと閉会の辞
- 17:30-20:30 懇親会